

これまでの委員会における検討内容と意見等の整理

第 1 回委員会での検討内容の整理

○住之江工場更新計画について 【 報告事項 】

- ・事務局から、以下の事項を前提として検討する旨の報告があった。
 - ①処理能力は日量 520 トンから 400 トンに縮小する。
 - ②公共が資金を調達し、民間が建設・運営を行う DBO 方式を導入する。
 - ③既存建屋を一部流用して設備更新を行う。
 - ④事業者選定にあたっては、総合評価方式を採用する。
 - ⑤スケジュールについては、平成 30 年度年央に工事契約、平成 35 年度竣工を目指す。

○「住之江工場更新計画に係る既存建屋の利活用等調査」実施要領(案)について

- ・現地説明会の際に、課題や問題点の抽出ができるよう詳細な説明を行って意見を求めていくこととし、事務局提案のとおり実施することとなった。

○住之江工場の処理方式について

- ・森之宮工場建替計画検討の際に時間をかけて検討しており、その後、技術的に大幅な変更が見られないこと、また近年の受注実績を見ても処理方式の技術的な特徴に変化がないことから、前回の委員会の結果を尊重する方向で進めることを確認した。

○住之江工場における計画ごみ質の決定について

- ・事務局提案の発熱量やごみ組成を妥当と判断し、提案どおり認めることとした。

第1回委員会での主な意見等

(1) 住之江工場更新計画について 【報告事項】

- 資料2の一般廃棄物基本計画の表紙に策定した平成27年4月と記載をしておくべきである。
- 現在の住之江工場の定格発電能力は11,000kWだが、日常的にはどのくらい発電を行っているのか。
→現状については確認してお知らせする。
- 住之江工場建物等調査結果では、コンクリート中性化対策が必要とのことであるが、外壁や構造体は大丈夫との理解で良いか。また、中性化が進んでいるごみピットの壁は全面的にやり替えするのか。
→薬剤等による中性化対策を実施することにより、利用可能と考えている。
- 住之江工場の建物を利用することを前提に計画を進めるのか。
→建物をなるべく利用したいと考えているが、どのような利用が可能なのかプラントメーカーの意見を伺いながら検討していきたい。
- 現在の住之江工場は2世代使用するつもりで建物を作ったということだが、経緯が分かれば参考になる。
→住之江工場は、天井を取れば設備の入れ替えが可能となるよう、焼却炉を自立させる設計がなされている。当時は、25年から30年くらいで設備の入れ替えをし、建物は50年くらい使用できるだろうと考えていた。
- 検討を進めていく中で、耐水性、耐震性、工期を考慮し、全部解体して建替えした方が有利であることが明らかになった場合は、昭和63年のときの方針と違うことをするということもあり得る。
- 建物の再利用に固執して結果的に高くつくということは良くない。
- 建物自体の健全性や安心・安全を基本に総合的に検討していくことで良いか。
→了解。

(2) 「住之江工場更新計画に係る既存建屋の利活用等調査」実施要領(案)について

- 昭和63年に竣工して、平成35年の竣工からさらに30年稼働すると、通算70年くらいの建物利用になる。建物は補強すると大丈夫ということか。
→必要なメンテナンスを実施すれば利用可能と考えているが、必要に応じて建築専門家の意見も聞きながら検討していきたい。
- 利活用調査の際に竣工後30年間は使用することを明確に説明すること。

- ごみ焼却工場は他施設よりも酸性ガス等の影響を受けていると思われるので、中性化対策などで、安全側になるよう対応していただきたい。
- 災害対策で水槽や電気設備等の重量物を上階にあげると、建屋に負荷をかけることになる。焼却炉のように自立させるような設計も検討していただきたい。
- 実施要領の（２）調査内容の「⑥既存建屋を利用するにあたっての課題・問題点」の抽出が重要である。プラントメーカーに詳細な調査をしていただいて参考にするべきである。
- 既存建屋の再利用ありきではなくて、全面的な建て替えも含め、慎重な検討を行っていただきたい。
- 現地説明会の際に、課題や問題点の抽出ができるよう詳細な説明を行って意見を求めていく。また、いただいたご意見を参考に検討していきたい。

（３）住之江工場の処理方式について

- 二酸化炭素の排出量抑制が大きな環境問題となっている。
- 処理方式については、森之宮工場検討時から状況に大幅な変化が見られないので、前回の検討結果を尊重する方向で進める。
- 過熱器管の減肉について、プラントメーカーにより差があり、問題となっている事例もあると聞くので、注意して検討していきたい。

（４）住之江工場における計画ごみ質の決定について

- ごみ排出量の予測に人口の増減が考慮されているのか。
- 近年のごみ排出量の推移は人口の増減と比例しておらず、予測以上にごみの減量が進んでいる。
- 現在の都市インフラとして、災害ごみが受け入れられることができるように強く言われており、ごみの形状が大きくても受け入れることを加味しておくべきである。
- 事務局提案の発熱量やごみ組成は妥当な数字となっている。

第2回委員会での主な意見等

【平成27年8月24日（月）開催】

- 湿式有害ガス除去装置について、乾式有害ガス処理装置を選択する自治体もあるが、工場更新後も湿式有害ガス除去装置を設置する考えか？
 - 現工場は湿式有害ガス除去装置が設置されており、更新後も湿式有害ガス除去装置を設置する計画としている。水銀に対する新たな規制の動きがあり、湿式有害ガス除去装置を設置することで実質的な低減と新たな規制への対応が可能となり、有利だと考えている。
- 発電した電力の逆送量について、1万kWは超えるようにすべきである。
 - 工場の所内負荷もあり、1万kWを超える逆送量とすることは難しいと思われるが、高効率な発電により、発電量の増強に取り組んでいきたいと考えている。
- 工場の屋上に太陽光パネルを設置する考えはないのか？
 - 荷重等の確認ができていないが、環境学習の観点から見学者動線に太陽光パネルを設置したいと考えている。
- 土壌汚染調査は実施するのか？
 - 焼却施設を廃止する場合、通常は土壌汚染調査を実施するが、今回はプラント更新と言うことで、継続的に使用することから休止的な扱いで土壌調査手続が必要かどうか確認中である。
- 巨大地震発生時に水槽内の液が波立つ現象（スロッシング）により水槽が破損する恐れがあるので、対策を検討のこと。
 - 排水処理の水槽はコンクリート製で1階部分に設置されていることから荷重的に丈夫な構造ではあるが、スロッシングによる破損の危険性がないか確認する。

【平成27年8月26日（水）開催】

- 塩化水素の管理値はどの程度か。
 - 新工場では15ppmを検討している。現工場は確認して回答する。
- 水冷式蒸気タービン復水器を計画しているが、取水口のメンテナンスが大変と聞いている。空冷式に変更する考えはないか？
 - 水冷式蒸気タービン復水器は、空冷式よりも排気圧力が低減できるため、発電効率が高くなること、ごみ発電で水冷式を採用している工場は少なく特徴的であること、空冷式による温排気を大気中に放出するよりも水冷式の方が地球温暖化防止の観点から環境的に良いことから水冷式とする計画としている。
- 現工場の見学者動線は、設備を間近に見ることができ非常に興味深い。設備更新後もこの特徴を生かした見学者設備にして欲しい。